

きょう四十九日
菅尾さんの母親

感謝の思い込め友人に

尼崎JR脱線

死は生の延長

この記事に(神戸新聞6/1)
あなたはなにを
よみとりますか

尼崎JR脱線事故の犠牲になつた会社員
菅尾吉崇さん(三一)の母親美鈴さん(五
六)・神戸市東灘区が、十一日の四十九
日法要に合わせ、吉崇さんの軌跡を伝える
写真と直筆の手紙などを収めた「メッセージ
カード」を作成した。

日がたつほど深まる悲しみ。「優しさに
あふれていた吉崇は、みんなにありがとう
と言いたいはず」。カードの冒頭には二文
字を記した。「感謝」。吉崇さんの友人
や関係者ら約二百八十人に届けられる。

川西市内に住んでいた吉崇(よしこ)さん
はあの日、出勤のため川西池田駅から快速
電車に乗った。吉崇さんの会社からの連絡
で事故を知った美鈴さんは、吉崇さんの携
帯電話にメールを送り続けた。「待つて
から、必ず生きて帰ってきて」
しかし、翌日の午前6時前、一両目の運
転席の後ろから運び出された。母は変わり
果てた息子の体をさすり続けた。

吉崇さんはこれまで、何度も試練を乗り
越えてきた。十年前の阪神・淡路大震災は、
自宅マンションで被災。約四年前、突然ウ
イルスに侵される「髄膜脳炎」にかかった。
医師からは「いのちは助かっても、記憶力
と思考力が欠如するかもしれない」と宣告
された。病院内をはいかいする吉崇さん。
家族のことすら次第に認識できなくなつた。

だが、奇跡が起つた。約四ヶ月の入院
を経て回復。ここ数年は、司法書士という
目標も見つけ勉強に打ち込んでいた。

吉崇さんのものとに、吉崇さんの友人からメッセージ
が寄せられた。「今まで自分が生きて
これたのはヨシさんのお陰」「菅尾さんに
元気をもつていた」。救われるおもい
がした。吉崇さんが「こちらこそ感謝を伝
えたい」と言つているように思え、カード
に「楽しい思い出を戴いた皆さんに感謝しな
がら安らかに眠つていて」と書いた。

吉崇さんの自筆の文章も添えた。

「それぞれ自分の道をしっかりと歩んで下
さい。自分の人生だから」
米国に留学中の吉崇さんが、身内の死に
ショックを受ける美鈴さんらにあてた手紙
から取つた。すべての言葉が「残された私
たちへのエールに思えて」と話す。

事故後、吉崇さんがインターネット上に
日記を公開していたことを知つた。「友人
の死」をテーマにしたところには、「死

を生の対極としてではなく、その延長とし
て考えると、今は亡き人との距離も近くな
る氣がする」と書かれていた。何度も読み
返した。「吉崇は遠いところにはいない
と思えるようになった」と美鈴さん。

そして迎える四十九日は、「区切りでは
なく、『竹の節』みたいなもの」
深い悲しみは続く。だけど、ここの中
の吉崇さんと、感謝の気持ちを胸に生きて
行こうと考へていて。(中島 摩子)



「感謝」の思いを込めたメッセージカード。吉崇さんがつづった文章を添えた